

H8S/BOOT-PBCタイプでデバッグ用ポートをブートポート以外に指定した場合の初期手順

Rev1.01 2007/10/17

【対象CPU】

H8S/2238B・R、2239、2258、2633・R、2636、2638、2639が対象になります。

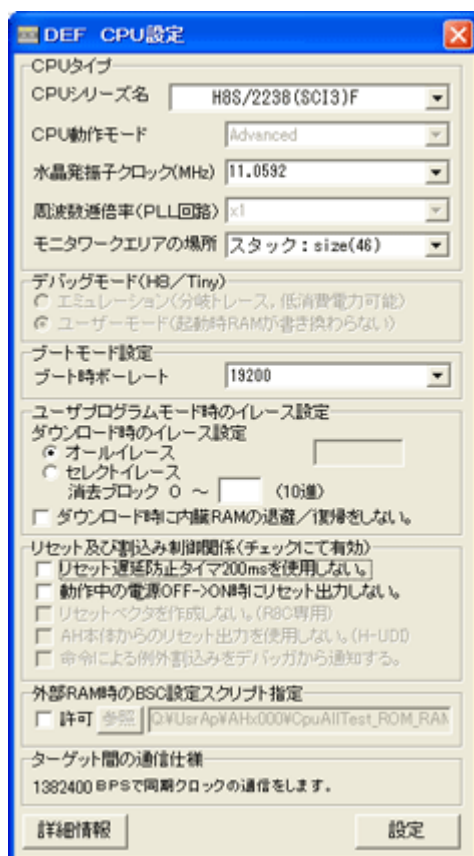
【機能】

この対象CPUは、デバッグ用ポート（SCI）をブートポート以外のポートを指定することが出来ます。
ただし、初期時のみブートポート経由にて指定ポート用のモニタを登録するためにブートポートを使用します。

【初期時の手順例】

H8S/2238Fの（SCI3）をデバッグポートとした場合の手順例を説明します。（ブートポート：SCI2）

1) <オプション>-<CPU設定>で設定する。



<- H8S/2238(SCI3)F を指定する。

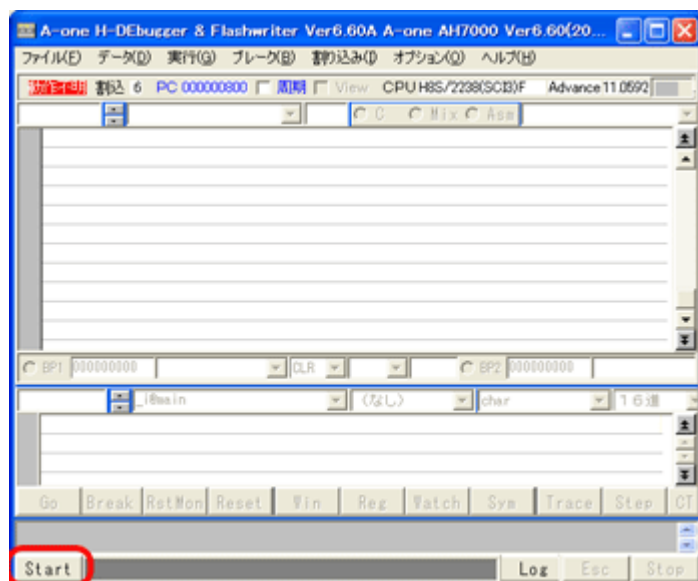
<- ターゲット基板に付いている発振子クロックを指定する。

<- ブートモード時の書き込みソフト転送用のボーレートを指定する。

<- 「リセット遅延防止タイマを使用しない。」のチェックを外す
ハード構成によりですが、取りあえず外しておきます。

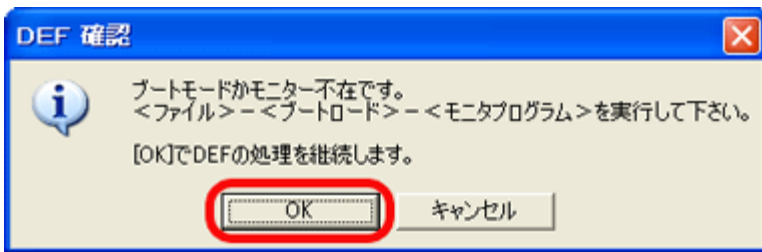
<- 「設定」をクリックします。

2) コントロールソフト（DEF）の左下PBの「Start」をクリックします。



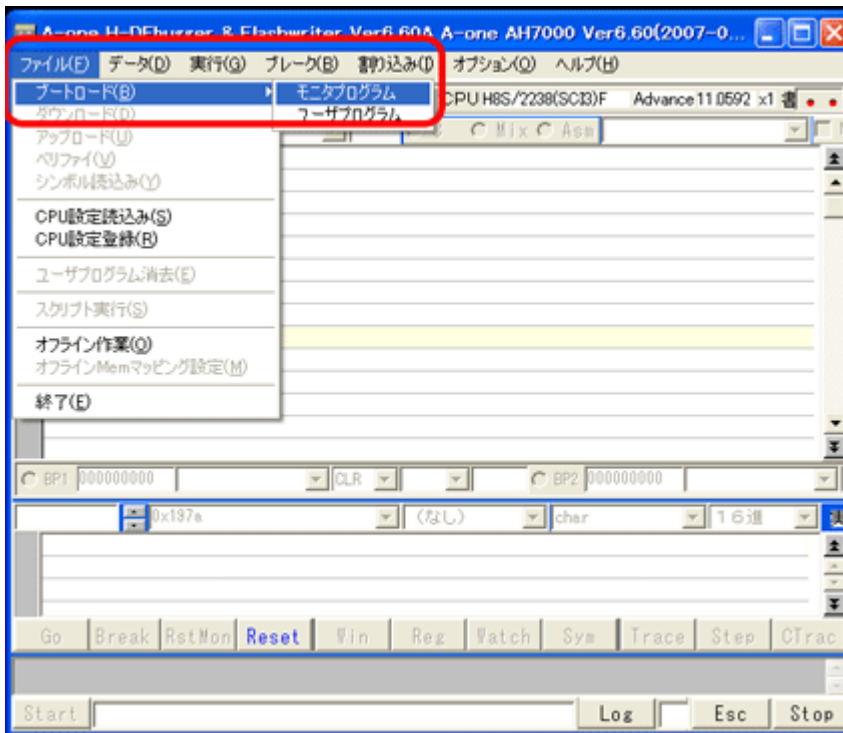
<- 「Start」をクリックします。

3) 初期状態ですので、「モニタ不在」と表示されます。

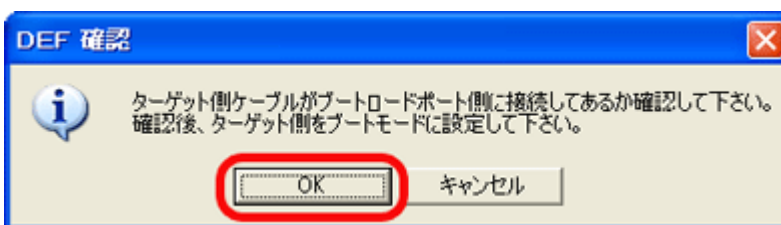


← 「OK」をクリックします。

4) <ファイル>-<ブートロード>-<モニタ>をクリックします。



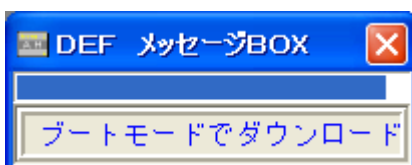
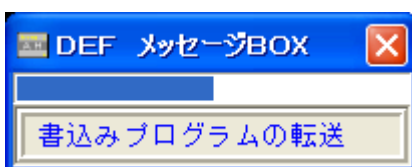
5) ブートポートへの接続確認とブートモード設定の確認画面が表示されます。



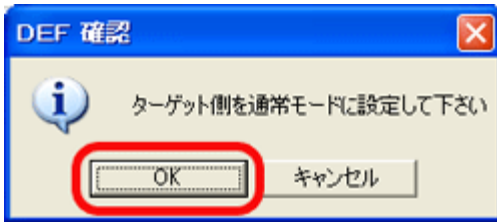
- ①H-debugger本体の接続ケーブルをブートポート(SCI2)に接続する。
- ②ターゲット基板をブートモードに設定にする。
MD1=1 (HIGH)、MD2=0 (LOW)

← 「OK」をクリックします。

6) 内蔵フラッシュ書き込みプログラムの転送とモニタプログラムの書き込みを開始します。



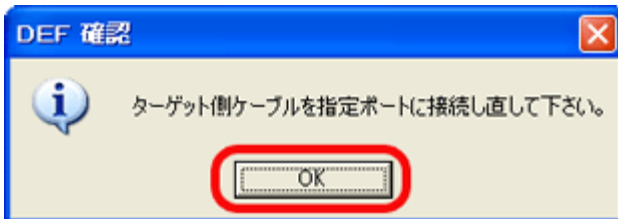
7) モニタ書き込みが正常終了しますと通常モードへの設定画面が表示されます。



①ターゲット基板を通常モードに設定する。
MD 2 = 1 (HIGH)

← 「OK」をクリックします。

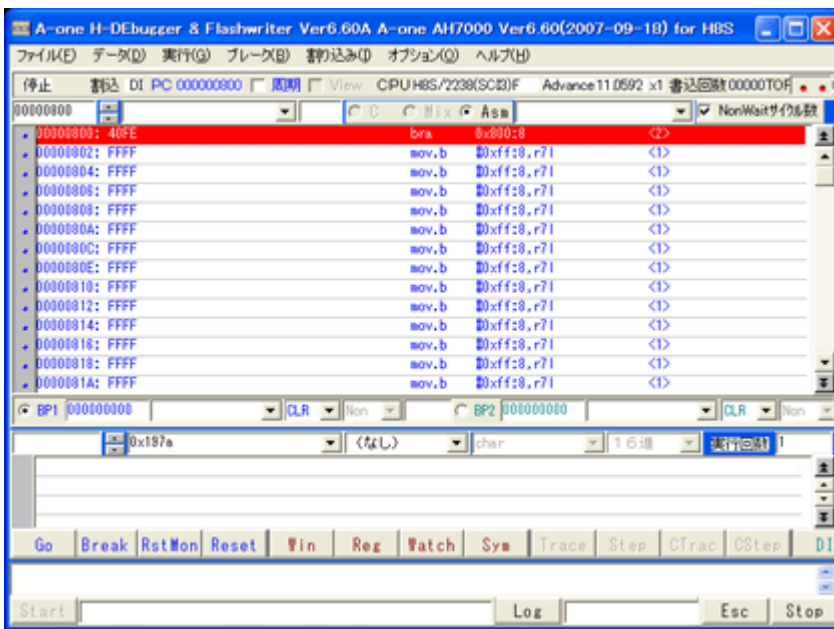
8) 指定デバッグポートへの差し替えの指示が表示されます。



①H-debugger本体の接続ケーブルをデバッグポート (SCI 3) に差し替える。差し替え時にターゲット基板側の電源をOFFしても処理継続します。(AH7000) 差し替え終了しましたら、電源をONにしてください。

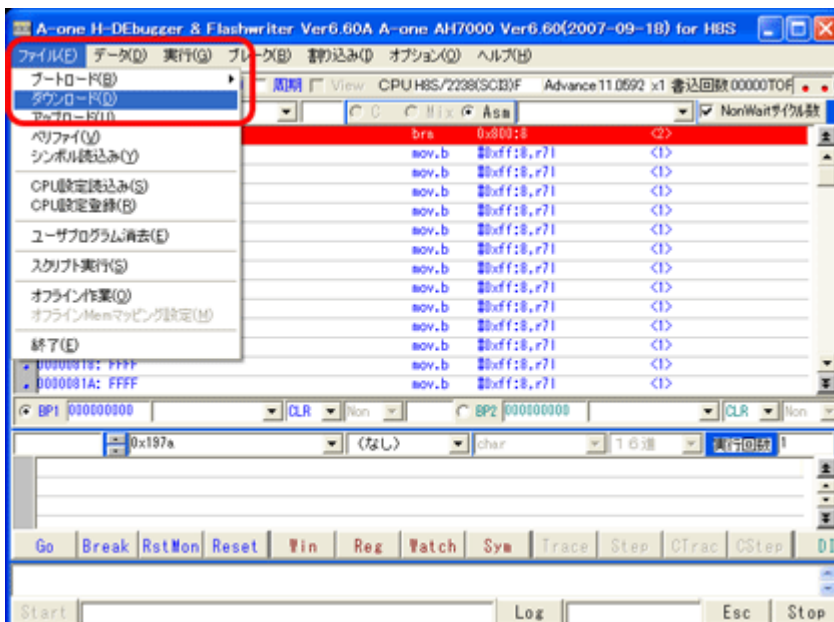
← 「OK」をクリックします。

9) コントロールソフト (DEF) は、ターゲット基板と通信を開始します。



正常にモニタが組み込まれますと左図のような画面になります。

10) デバッグポート (SCI 3) 経由にて、ユーザプログラムをダウンロードします。

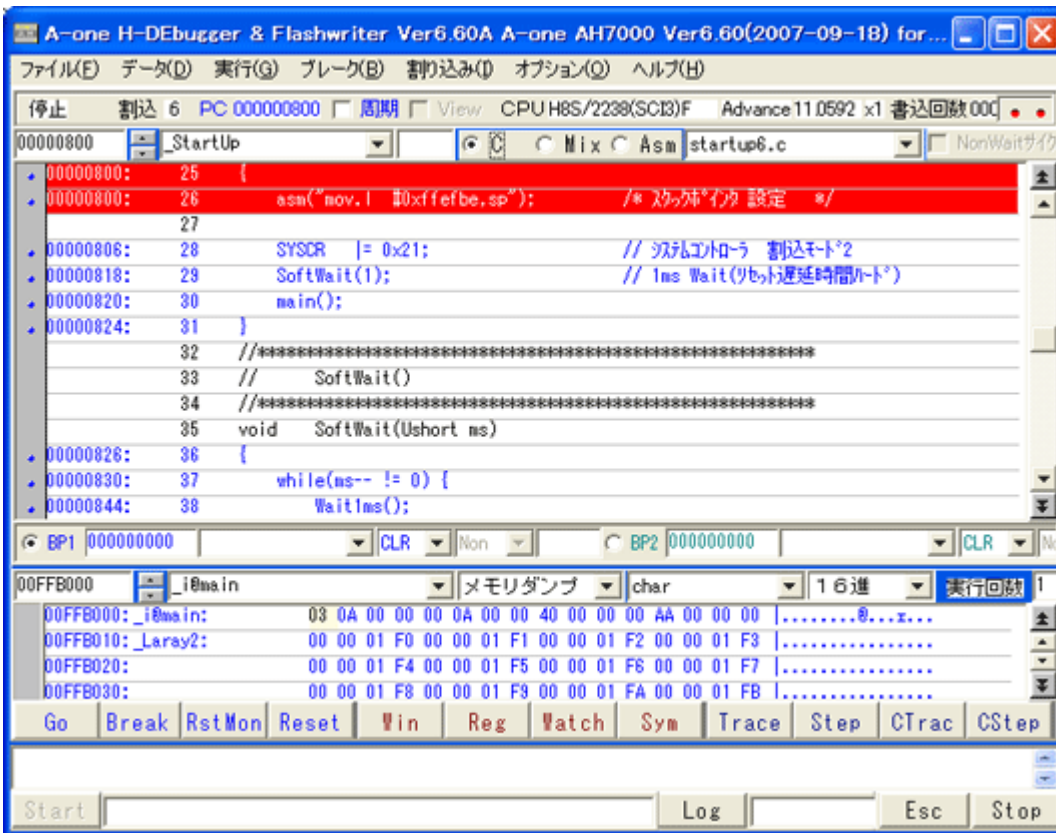


<ファイル>-<ダウンロード>

0x200~0x7FF番地 (モニタエリア) を空けた、ユーザソフトをモニタ自動添付した状態で、SCI 3 経由にてユーザプログラムモードでフラッシュROMに書き込みます。

デバッグ中は、この操作でプログラムをダウンロードします。

1 1) 最終確認のDEF表示例です。



全て正常終了しますと、左図のような画面になります。

以上